



神奈川支部報

神奈川支部報 第 10 号

発行日：2018 年 7 月 1 日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部

横浜市青葉区若草台 2-58 込田方

丹沢おぼえがき（2）

近代登山以前一重視された丹沢御林

砂田定夫

戦国時代、丹沢山地は小田原城を拠点として関東の覇権を握っていた後北条氏の領国であった。北西部は甲斐の武田氏の領国と接しており、大室山、畦ヶ丸、菰釣山などの山稜が天然の要害となっていたが、1569（永禄12）年に武田信玄が小田原を攻めたとき侵攻している。後北条氏が重視したのは丹沢の山林であり、材木の供給地であったことで、小田原城建設や鶴岡八幡宮の復興造営などの事業に重要な役割を果たしている。特に煤ヶ谷は後北条氏の領国における植林、製材及び炭生産を行う林業経営のセンターとして重視され、山奉行が置かれて厳しく管理された。また、東南麓には後北条氏の支配による鋳物師集団や刀鍛冶が存在し、軍需工場地域となっていた。鎌倉時代以後、武家権力の庇護を受けた大山は、加持祈祷のほかに軍事力や情報収集能力が期待され、武田氏の脅威に対する戦勝祈願が行われた。前回でも述べたように、丹沢一帯、特に東丹沢地域は山岳修験の聖地でもあった。このように丹沢山地は、他国からの防塁、出入り口であり、信仰の聖地であるとともに、資源の供給地、産業地域として、多様な要素によって構成された重要な地域であった。そこには直轄領、給人領、寺社領が存在し、大名権力として後北条氏が管轄していたのである。

丹沢山地における自然林の管理は、後北条氏が滅亡すると徳川氏に引き継がれ、江戸幕府の天領（直轄領）となり、「丹沢御林（おはやし）」として厳しく管理された。丹沢御林は、1624（寛永元）年の江戸花水橋建設用材調達が発端で成立したという。モミ（樅）、

ツガ（梅）、ケヤキ（欒）、カヤ（榎）、クリ（栗）、スギ（杉）の六木を「留木」と呼んで管理し、盗伐や山火事防止などについて寺山、横野、煤ヶ谷、宮ヶ瀬の4ヶ村、のちに菩提も加えて山守役を命じた。これらの用材は城、寺社、船、橋などを目的とした建材として重要だった。

東丹沢の“へそ”にあたる谷あいには「札掛」という場所がある（愛甲郡清川村）。この地名は巡回のとき、3日勤めの証しとして大ケヤキに札を掛けたことに由来する。この大ケヤキは1937（昭和12）年の大洪水で流失するまで存在したという。



↑ 札掛の大欒（焼失前撮影）神奈川県林務課所蔵

1889（明治22）年、東西丹沢の御林は農商務省の所管となったが、同年帝室御用林と

なった。神奈川県に下賜され、県有林となるのは1931（昭和6）年のことである。

（註）後北条氏の管理については、『足柄乃文化』35号（山北町地方史研究会）を参考にした。

「かながわ山岳誌プロジェクト」

2017年度活動報告

標記プロジェクトは、神奈川支部設立を記念して、5年計画で神奈川県下の2.5万分の1の地形図に記載された山名と峠及び登山対象となるピークのすべてを登って、日本山岳誌の神奈川版を作成し、それらの情報提供などを通して社会へ貢献することを目的としてスタートした。

昨年4月に湘南平で25名参加のもとにキックオフ山行を実施した。その後、5月の支部総会で事業方針が承認されたことを受けて6月から本格的に踏査を開始した。踏査コースはその難易度によって、ハイキング・登山初級程度のLコースと登山中・上級程度のHコースを設定した。7・8月を除いて、原則として毎月第2土曜日にLコース、第4土曜日にHコースの踏査を実施した。2017年度に16コースで、67ポイントを踏査した。これは、当初計画に対して、全コース数の20%、全ポイント数の23.8%に相当しており、数字の上からは順調に進捗していることが分かる。また、参加者数は実数で40名、延べ人数で127名、1山行の平均は約8名である。参加者がさらに増える（特に若い会員）ことが望ましいが、リスクの問題もあり、バランスをどうとっていくかが課題となっている。

今年度からは、踏査を継続する一方で、報告書作成に向けた取り組みも開始することになっている。このプロジェクトの目的に沿って、単なるガイドブックとしての役割の他に、地学・気象・植生・山岳宗教・山名の由来などの文化的な情報も加えた総合的山岳記録誌を目指している。

踏査と編集の両面で支部会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

プロジェクトリーダー：森 武昭

山行報告

ミツバ岳 かながわ山岳誌(Lコース)

平成30年3月24日(土)

Hコース：小田急新松田駅7:20＝(バス)＝8:16 浅瀬入口バス停8:25～8:56 滝壺橋9:01～10:32 ミツバ岳(250)10:46～11:32 世附権現山(88)12:21～12:54 二本杉峠○12:56～14:10 屏風岩山(208)14:30～14:37 屏風岩山東峰～15:43 大滝橋バス停 15:44＝(臨時バス)＝16:59 小田急新松田駅

(参加者) 永井泰樹、田島剛、森武昭、稲垣哲郎、森静子、丸山さかえ、柴山信夫



↑世附権現山山頂にて

大野山 かながわ山岳誌(Lコース)

平成30年4月14日(土)

山北駅(9:07)～(9:27)大野山入口バス停～(10:22)旧共和小学校の先(10:26)～(10:34)地蔵岩ルート入口～(12:20)大野山(38)(12:53)～(13:59)変則十字路(14:05)～(14:15)頼朝桜～(14:29)嵐入口(車道合流点)～(15:02)谷峨駅 なお、予定していた城山(107)は、時間と天候が崩れたことから中止とした。

(参加者) 森武昭、稲垣哲郎、堀井昌子、葉上徹郎、渡辺正敏、大字進、永井泰樹、田島剛、舟根章、丸山さかえ、中島良行、高井咲子



↑大野山山頂にて

西丸・東丸 かながわ山岳誌 (Hコース)

平成30年4月21日(土)
 御殿場線山北駅 7:36=(マイカー)=8:25 山
 トンネル入口 8:34~8:43 山伏峠~9:03 大
 棚ノ頭 9:06~10:01 西丸(179) 10:06~11:29 東
 丸(200) 12:01~13:05 大棚橋 13:10~14:04
 918m 峰~14:32 1007m 峰(三角点) 14:38~
 14:59 丸尾山(240) 15:06~15:54 切通峠
 15:58~16:09 太陽光発電所 16:14=(マイカ
 ー)=16:55 御殿場線山北駅
 サポートの森夫婦:8:40に永井・田島両氏を
 車で山伏峠に送る。
 8:55 神奈川工科大学山中荘 9:05~9:35 高指
 山 9:43~9:56 富士岬平 10:00~10:40 山伏
 峠からの合流点 10:58~11:03 大棚ノ頭
 11:05~11:45 富士岬平 11:50~12:00 高指山
 12:05~12:30 切通峠 12:35~13:00 神奈川工
 科大学山中荘。16:00に切通峠近くの太陽光
 発電所で永井・田島両氏を迎える。(参加者)
 永井泰樹、田島剛、森武昭、森静子



↑東丸山頂にて

三国山 かながわ山岳誌 (Lコース)

平成30年5月12日(土)
 箱根湯本駅 9:05=9:50 桃源台バス停 10:
 00~10:25 深良水門 10:30~10:50 湖尻峠
 (79) 11:05~12:00 三国山(248) 12:40~13:
 40 山伏峠(275) 14:00~14:55 海ノ平(25) 15:
 00~15:27 箱根峠(187) 15:30~15:40 箱根
 峠道の駅 16:25~16:40 箱根町バス停 17:
 00=17:25 箱根湯本駅

(参加者) 森武昭、稲垣哲郎、込田伸夫、
 葉上徹郎、渡辺正敏、田島剛、舟根章、高
 井紀栄、丸山さかえ、廣島孝子、五十幡愛
 子



↑三国山山頂にて

大タル山 かながわ山岳誌 (Hコース)

平成30年5月26日
 新松田駅 7:11=(バス増発便)=8:00 玄倉
 8:20~<玄倉林道>~8:54 立間大橋(小川谷
 出合)~9:59 敷地山ノ頭 10:04~10:41 芋ノ
 沢ノ頭 10:42~12:00 白ザレのピーク(昼食)
 12:19~12:36 大タギリ 12:36~13:22 大タル
 丸(36) 13:33~13:50 女郎小屋乗越~14:07
 女郎小屋ノ頭(103) 14:23~<女郎小屋ノ頭南
 尾根>~15:03 日向ノ頭手前の鞍部 15:13~
 16:56 女郎小屋沢・玄倉川合流点 17:26~<玄
 倉林道>~19:02 玄倉 19:24=(バス)=20:06
 新松田駅

(参加者) 永井泰樹、田島剛

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

役員会報告

3月役員会

日時：3月15日（木）19：00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・会員の異動
- ・山行報告
檜岳山稜（2/24）山岳誌H
湯河原幕山（3/10）山岳誌L
赤倉妙高スキー山行（3/9-11）
- ・備品等の購入について

審議事項

- ・山行計画
ミツバ岳（3/24）山岳誌H
大野山（4/14）山岳誌L
西丹沢大杉山、円海山
- ・平成29年度会計報告（案）について
- ・支部総会について
- ・『山岳』支部活動報告の提出依頼について

4月役員会

日時：4月19日（木）19:00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・会員の異動
- ・山行報告
ミツバ岳（3/24）山岳誌H
大野山（4/14）山岳誌L
- ・備品の棚卸しについて
- ・平成29年度の会計報告・監査報告について
- ・『山岳』『各支部の活動報告』原稿提出について
- ・記念事業委員会アンケートの回答について

審議事項

- ・山行計画
西丸（4/21）山岳誌H
箱根三国山（5/12）山岳誌L
- ・支部総会について
- ・次期執行体制について

5月役員会

日時：5月17日（木）19:00

報告事項

- ・会員の異動
- ・山行報告
西丸（4/21）山岳誌H
箱根三国山（5/12）山岳誌L

審議事項

- ・山行計画
・大タル丸（5/26）山岳誌H
・湯船山（6/9）山岳誌L
・支部総会について]

支部会員動静

入会

- 16303 樋詰順郎
- 12895 植木淑美（東京多摩支部から）
- 13020 徳永君江
- 6676 梶正彦
- 13679 國清喜美子

退会

- 12732 山口恭生（退会）
- 14238 植木康一郎（退会）

平成30年度支部総会報告

日時：平成30年5月19日（土）

16:45～17:05

場所：神奈川大学横浜キャンパス3号館305教室

出席者：実出席35名 委任状による出席68名（全員、支部長に委任）

配付資料

1. 平成30年度神奈川支部執行体制
2. 神奈川支部 平成29年度事業報告
3. 神奈川支部 平成29年度会計報告
4. 監査報告書
5. 神奈川支部 平成30年度事業計画(案)
6. 神奈川支部 平成30年度予算(案)

議事

寺井事務局長より、平成30年3月末現在の支部会員は151名で、出席者103名は過半数を超えているので、本総会が成立してい

ることが報告された。

議事に先立ち、本年1月に逝去した井村副支部長の冥福を祈って出席者全員で黙祷を捧げた。

次いで、支部規約第15条により、本総会の議長に込田支部長が選出。

- (1) 込田支部長より、役員任期満了に伴う次期役員選出に関して提案説明があり、承認された。なお、任期は再来年の通常総会まで。
- (2) 寺井事務局長より、平成29年度事業報告について説明があり、承認。
次いで、青木会計担当より、平成29年度の会計報告の説明があり、承認。
さらに、砂田監事より、会計監査および業務監査の結果について報告があった。
- (3) 寺井事務局長より、平成30年度事業計画について説明があり、承認。次いで、青木会計担当より、平成30年度予算案の説明があり、承認。

支部総会開催前に、神奈川支部公開イベントとして、神奈川大学山岳部の活動報告、映画「ユレク」の上映、古野淳会員による講演会「ヒマラヤ最新事情」を一般公開で開催した。参加者は約40名。

その後、場所を神奈川大学1号館8階の食堂に移して、懇親会を開催した。参加者34名。

※支部総会での決定事項は事前配布の原案通り承認されたのでそちらで確認ください。

神奈川支部執行体制（平成31年5月まで）

| | |
|--------|--|
| 支部長 | 込田伸夫 |
| 副支部長 | 大槻利行 |
| 副支部長 | 早川正志 |
| 事務局長 | 永井泰樹（新） |
| 事務局長補佐 | 森 武昭 |
| 会計 | 青木まゆみ |
| 役員 | 柴山信夫（新）、落合正治、 廣岡正敏、長島泰博、植木貞一郎、田島 剛（新） |
| 監事 | 砂田完夫、富岡一郎 |
| 顧問 | 川俣俊一、堀井昌子、中山茂 |

樹、星征雅

オブザーバー 五十幡広樹、寺井素子

今後の予定 役員会

7月19日（木）19時～
8月 ありません
9月17日（木）19時～

於：神奈川工科大学横浜事務所

南関東ブロック三支部合同懇親山行 大高取山（埼玉県越生） （締め切り済）

日程：平成30年10月27日（土）～28日（日）
場所：「ゆうパークおごせ」

予定：27日 「越生ブリュワリー」で購買と試飲。各支部役員参加者紹介。山岳映画鑑賞
親睦会・チャリティーオークション
28日（A 班大高取山登山、B 班自然観察会）

2年2ヶ月を振り返って

寺井素子（前事務局）

ご縁があつて数年前に山岳会に入り、ほんの偶然から神奈川支部設立の発起人に名を連ねました。働き盛りの若手を中心でしたから余程引き受け手がいなかったのでしょうか、何の前触れもなく会議の席で突然指名され、支部立ち上げ時の事務局を担当することになりました。返す返すも迂闊なことでしたが、人材に恵まれた支部で経験の浅い私に求められたのは、要は無償で労働力を提供する雑用係でした。何にせよ身に余る大役を何とか務めることができましたのは、込田支部長をはじめとする役員および会員の皆様の忍耐とサポートのお陰と感謝しております。心より御礼申し上げます。

私が日本山岳会に入ってからお世話になっていましたのは、首都圏のワンダーフォー

ゲル部です。年齢や境遇、志向が似通った仲間がいて、幹部の皆さんも頭脳と経験に行動力を兼ね備えた方が揃う大変に恵まれた環境でしたが、そのことに気付いたのは、新設とはいえ伝統ある山岳会の価値観に基づく支部の一端を担わせていただいたお陰です。本当は神奈川支部にも同様の集まりができれば嬉しいのですが、現役世代は勤務先が都内の神奈川都民が多く、また東京中心とした放射線状の鉄道網では県内の縦移動も不便なため、集まりやすいのは都内である、という実情があります。

かつては選ばれた岳人の集団であった山岳会が、時代の変化に対応して裾野を広げた結果、私のような従来層とは異なる会員も増えてきました。多様な人材が集まることで会が活性化し、それとともに若手や女性が役員等に登用されるのは良いことです。一方で、新しい課題も出てきているはずですが、たとえば、従来は長期間所属して人間関係を築き、受けた恩を後に返す形で会の運営が支えられてきたと思いますが、何のしがらみもなく入会し恩を返さないうちに退会する会員も増えることでしょうか。また一般論として未だ世代間の富の移転が進まず生涯賃金の男女

格差が大きいことにも配慮が必要です。お世話する側が疲弊せず会員間の公平性が保たれるような工夫が求められているのではないのでしょうか。

日本山岳会は、ツアー会社でもボランティア団体でもなく、会員が相互に楽しむためのクラブです。まずは、自分が楽しんだ分を自分ができるところで返すこと。それが常識になり、支部の活動が充実していくことを一会員として期待しています。



↑台湾基隆山にて（2017年11月5日）

（特別寄稿）

日本山岳会神奈川支部 副支部長 井村英明氏(享年76歳)への追悼文

平成30年1月25日突然の井村さんの訃報に接し驚愕すると同時に最近まで元気なお姿を拝見していたので、何故と不審に思ったことでした。1月29日夕方あわただしく東戸塚総合斎場でのお通夜に出席し、最後のお別れをしました。私より5～6歳お若いのに先に逝ってしまい寂しい限りです。

井村さんは昭和40年早稲田大学商学部を卒業するまで、趣味のスポーツである登山を楽しむべく早大山の会で4年間活躍さ



れ、私の5年後輩になります。現役時代登山をご一緒したことはありませんが、OB会の稲山会の行事ではしばしばお付き合いさせていただきました。責任感が強く面倒見の良い方で、後輩の指導にも中心的役割を果たし、現役の冬山合宿や岩登り、四季折々の登山にも参加される気さくな面もありました。豪放磊落な方と見えますが、奥様のお話では朝早く自分で弁当など作りそうっと出発するなど、繊細な性格でもあり細かいことにまで気を配っていたので、奥様に心配させることもなかったとのことでした。スマートなベテラン登山家として格好良かったと思います。しばらく稲山会の幹事を務め、昨年会長に選出されました。稲山会の新年会が1月27日に開催されましたが、直前まで新任会長として出席して挨拶すると準備していたので、病院を抜け出すのではないかとほらはらしていたそうです。しかし病魔には勝てず、御本人は心残りだったでしょう。このように山に対する愛情は生涯変わらず、ある意味ではうらやましかったと奥様はおっしゃっていました。

井村さんと私とのかかわりは、日本山岳会神奈川支部設立に際し、同じJACの会員で神奈川県在住者なので、是非支部設立に参加してほしいとの依頼があり、私も引退後は軽い山登りを楽しもうと二つ返事でお受けした経緯があります。ところが2年前エベレストトレッキングに行った際狭心症にかかり以後山登りが出来なくなり、何のため支部に参加したのか意味がなくなりましたが、込田支部長のお誘いもありスキー合宿には参加しています。井村さんは大学卒業後、大手ゼネコンの西松建設に入社され、晩年は海外勤務が多く、香港、シンガポール、ロンドン等で要職に就かれ活躍されましたが、西松は地下鉄工事やトンネル工事に優れ、英仏トンネル、シンガポールと香港地下鉄工事では西松の名を世界に轟かせるのに一役買ったと聞いています。香港時代には余暇にヒマラヤにも行かれた由、又頑固な面もあり生涯タバコは手放さなかったのが病気の原因の一つかなと推測しています。井村さんの永遠の旅立ちを悼み、以上を告別の文といたします。(日本山岳会神奈川支部会員、打矢之威)

あとがき

神奈川支部発足から2年が経ちました。5月総会において新しい役員が承認され、新しいスタートを切ります。2年間、支部の事務の取りまとめをしていただいた寺井事務長が退任されました。何もなかったところから支部を軌道に乗せ、何とか離陸できたのは寺井さんの尽力のあつてのことと感謝いたします。最後に無理を言って支部報に投稿いただきました。自分が楽しんだ分を自分ができることで返すこと。神奈川支部はそうありたいと思います。(泰)

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博

平成30年7月1日

次回は10月1日発行予定